

満福寺だより 第51号

発行 平成24年1月 国分寺市戸倉4-34-3 電話 042-321-3594

涅槃会（ねはんえ）の御案内

涅槃会はお釈迦様の御命日です。仏教徒が集い、心をこめてお参りする日です。

満福寺本堂に『涅槃図』を掲げて法要と落語・南京玉すだれ&マジックの楽しい催しを行います。涅槃図には北枕で横臥されているお釈迦様の周囲で泣き崩れるお弟子たちに混ざって、無数の鳥や獣たちがお釈迦様との死別を悲しむ姿が描かれています。

私たち仏教徒は、お釈迦様の涅槃から学ぶことは「私達の人生が終わる時には、涅槃図のように一人でも多くの人から惜しまれて、しかも心から手を合わせて拜んでもらえるような人になるよう努力すべき」ではないでしょうか。

「この日この時」を大切に、日々を過ごしてまいりたいものです。

涅槃会 日本伝統芸能を鑑賞しましょう！

2月11日（土）満福寺本堂にて

午前10時半 涅槃会法要 住職挨拶

午前11時 ・落語 参遊亭吞兵衛（国分寺市西恋ヶ窪在住 檀家）

・南京玉すだれ&マジック

小野洋一郎（国分寺市内藤在住）

12時 終了

・参加費 お賽銭を上げて下さい

・参加申込 2月8日までに満福寺へ電話等でお願ひします

南京玉すだれは日本で生まれた、生粋の日本オリジナル大道芸です。

「アきて、アきて、きては南京たますだれ…」といった独特なしゃべり方と軽快なリズムに乗って、竹製の専用のすだれを釣竿や橋などの形に見立てて操る大道芸です。大道芸の中では一般に広く知られている芸の一つで、女性の間でもこの芸をやる人が増えてきています。

もともとは、旅芸人や富山の薬売りが、客寄せの為に道端や広場で演じ、投げ銭を貰うのが目的だったようです。中国の南京で生まれたものではありません。

落語や南京玉すだれなどの大道芸の口上は、啖呵のきいた、ユーモアを交えた語りの中に、人情の機微に触れた味のある軽妙な話術で、愉快・痛快・抱腹絶倒してしまうほどに、聞く者の心を大きくゆさぶる、芸の極致といえます。

楽しい有意義な時間を過ごしましょう。